

JR九州は 住民の足を奪つゝ 大幅減便

駅無人化 やめよ

日本共産党7県代表が申し入れ



JR九州が3月のダイヤ改正で九州全路線で117本もの大幅減便や在来線の運行区間短縮などをおこなうとしている問題で、日本共産党の7県委員会代表とブロック事務所は2月26日、JR九州本社に同計画の撤回を申し入れました。



仁比聡平参院議員、 真島省三前衆院議員同席

申し入れでは、各県代表が「障害者や高齢者が一番に不安に思うことは駅に人がいないことだ」「せめて通勤・通学の時間帯は減便しないほしい」「減便で利用者が減れば次は廃線になるのではないか」など住民や自治体関係者らの声を紹介。JRの公共交通機関としての自覚が問われているとした上で、「自らの利益追求のために障害者や高

齢者、子どもたちの足と安全まで奪い、地域を壊すことは絶対に許されない」と強調。減便、無人化の計画は撤回するよう強く求めました。合わせて、熊本地震で被災した豊肥本線、九州北部豪雨で被災した日田彦山線の早期全線復旧を求めました。
申し入れには、堤榮三大分県議、武藤明美佐賀県議、山本伸裕熊本県議、前屋敷寛美宮崎県議、松崎真琴鹿児島県議と地方議員ら18人が参加しました。

JR九州による大幅減便、駅無人化の撤回等を求める要望書

九州旅客鉄道株式会社
代表取締役 青柳俊彦 殿

2018年2月26日
日本共産党 福岡県委員会
同 佐賀県委員会
同 長崎県委員会
同 熊本県委員会
同 大分県委員会
同 宮崎県委員会
同 鹿児島県委員会
同 国会議員団九州沖縄ブロック事務所

貴社は3月17日のダイヤ改正で、九州全路線で117本の大幅な減便（在来線の快速・普通列車が、一日当たり87本減の2615本、特急が24本減の277本、九州新幹線が6本減の119本）、在来線の運行区間の短縮などをおこなうとしています。その影響は通勤通学の時間帯も含まれており、利用する人にとってたいへんな困難をもたらします。また、九州各県では、観光客の誘致などにも力を入れており、今回の減便はこの取り組みにも大きな影響を与えます。利用客は「病院に行くのに利用する便がなくなってしまうので困る」「公共交通としての自覚をもってやってほしい」など、減便に対する不安の声を挙げています。
さらには、関係自治体に十分な説明もなく発表されたことに驚きと怒りの声があがっています。九州沖縄の各県知事や議長でつくる「九州地域鉄道整備促進協議会」や九州各県議会議長会、沿線自治体なども懸念を表明し、ダイヤ改正の見直しと利便性の向上などを貴社に要請をおこなっています。

ます。
また、貴社は、大分市内8駅のうち牧駅（日豊線）は、3月17日に無人化、さらに敷戸・大分大学前駅（豊肥線）については、秋までに点字ブロックなどを整え無人化し、高城・鶴崎・大在・坂ノ市・中判田の5駅は、構内のバリアフリー化やSSS（スマートサポートステーション）導入駅の利用状況を踏まえて「引き続き検討する」と報道されています。この駅無人化に対し大分市内の障がい者団体などは、「無人化は障がい者や高齢者に不便を押し付けるものだ」として、計画撤回を求める抗議集会等を開催しています。大分県や県議会、大分市や市議会などでも計画の再考を求める要望活動も行っています。

つきましては、JR九州として公共交通の役割を積極的に果たしていただくとともに、以下の点について要望します。

記

1. 九州全域にわたる大幅な減便について撤回すること
2. 大分市内の駅無人化計画は撤回し、今後とも九州各県でも実施しないこと
3. 特急のワンマン運転化をとりやめること
4. 豊肥本線、日田彦山線の早期の全線復旧を図ること